

世界平和は絶対に無理だ。

古信 宏一

Koichi Furunobu

「世界平和は絶対に無理だ」

留学先で出会った学生の一言に、古信は衝撃を受けた。日本で育まれた価値観が世界の当たり前ではないことを初めて実感した。

打ち砕かれた被爆地出身者としての価値観

高校時代から漠然と海外に憧れていた。進路に迷う中、国際教養学部創設の知らせを聞き、創価大学への進学を決めた。

1年秋学期には、アメリカへ留学。多国籍な学生との異文化交流を通し、毎日新しい発見をした。なかでも強烈だったのは、世界平和実現への見解の相違だ。前向きな議論をするつもりで投げかけた「世界平和の実現」というテーマは、「世界平和なんて絶対に無理だ」という留学生の言葉によって真っ向から否定された。

しかし、広島県出身で被爆3世の古信は、幼少期から平和教育や市民活動に触れ続け、世界平和・核廃絶実現の重要性と使命を強く感じていた。「育った環境によって、考えが全く異なる。日本で育ってきた自分は、社会にどう貢献できるのだろうか」。そんな問いが頭から離れなくなっていた。

「日本人として、国際的に働きたい」

帰国後は、国際関係学を中心に幅広い知識を身につけた。卒業後の進路に悩んでいた矢

先、友人に誘われ外務省の就職説明会へ足を運んだ。「日本人としての看板を背負って国と国をつなぐ働き方に、強く惹かれました」。核廃絶に向けた市民活動が続ける中で、国の働きの重要性も感じていた。「市民として核廃絶に対する強い想いを持っている自分だからこそ、外交官として施策に携わりたい」。

外務省入省をめざす古信の挑戦が始まった。夜間の予備校に通いながら、毎日10時間の自習を重ねた。勉強の過酷さに加え、民間企業への就職を決める同期の姿に焦りを募らせた。それでも最後まで外務省をめざし続けられたのは、世界平和に対する強い想いと、国際教養学部一期生として進路をきり拓く使命感があったからだ。挑戦し続けた結果、外務省から内定をもらった。

「国際教養学部での幅広い学びが、複雑に絡み合う国際情勢をあらゆる分野から学び捉える柔軟さにつながっています」。世界平和実現への誓いを胸に、古信は日本の看板を背負って国際社会へ大きな一歩を踏み出した。



学生生活のTOPICS

〔入学式実行委員〕

2か月程の期間でしたが、入学式当日の設営だけでなく、大学設立の意義を友人と一緒に学んだりお互いの挑戦を励まし合う貴重な期間となりました。「何のため」に学ぶのか思いを深めることができました。



〔ゼミ活動〕

ゼミでは国際公共政策を専攻しました。現在はインドネシア大学修士課程で公共政策を引き続き専攻しており、今後のキャリアにもいかせるようしっかりと学んでいきたいと思えます。



〔キャリアサポートスタッフ (CSS) としての活動〕

後輩のキャリア支援として、キャリア科目運営のサポートや、キャリア系イベントの運営に携わりました。一人ひとりの学生と真摯に向き合い、どこまでも可能性を信じていく中で、私自身多くの触発を受けました。



外務省で働くうえで
私が必要と思う
SOKA Generic Skill

《言語表現力》
《論理的思考力》
《課題設定力》

外交官への道

語学力の向上

高い語学力（英語または第3言語）が外交には欠かせません。

採用試験へ向けての試験勉強

私は予備校に1年半通って、試験対策をしました。

外務省専門職員採用試験

国際法、および憲法/経済等の1次試験と、面接等の2次試験があります。



Chapter 01

STORY

01

02